

診療所長 今月の二句

平成三十年三月

うつろひの 僅かな梅の 香りかな

もう冬ではないのを、体感するひと時。まばらに咲き始めた梅の木の横を、通り過ぎたとき。

「馥郁^{ふくいく}」という言葉彙を、思い出します。

朝食度 かじかむ手から 器落つ

小生、朝食は、ここ十数年、毎日七時半ちよつと前に、一人で支度して、決まったものを、一人で食べ、食器洗いもしていきます。結構水が冷たく、何回か、シンク内に落としてしまいました。女房は、まだ高野。